

## 教育委員会会議の概要（令和5年2月定例会）

- ◆ 日 時 令和5年2月6日（月）午後2時00分から午後3時04分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	出 席

### ◆ 会議の概要

#### 1 開 会

#### 2 議事録署名委員の指名 梅 田 委 員

#### 3 報 告 事 項

##### （1）秋保小学校・馬場小学校の統合について

（学校規模適正化推進室長 説明）

資料に基づき報告

##### （2）「仙台市学校教育情報化推進計画」最終案について

（ICT教育推進担当課長 説明）

資料に基づき報告

山 田 委 員 以前に説明いただいたときにも伺ったが、第6章にある計画の進行管理の評価指標項目A～Dについてはどのように評価するのか。子どもたちについては、情報活用能力学習目標リストに基づいて、できる・できないをはかるのだと思うが、教員の指導力の評価はどのようにするのか教えてほしい。

ICT教育推進担当課長 教員のICT活用指導力の状況にある評価指標項目A～Dについては、文部科学省が毎年、学校における教育の情報化の実態等に関する調査を行っており、そこで教員それぞれが各項目について回答をしている。これらの各項目について、研修の実施や

校内研修の充実、ICT支援員による支援などにより、令和9年度において、できる・ややできると回答する教員の割合が9割以上になることを目指していくものである。

山田委員 子どもたちは具体的な項目で、できる・できないをはかっているの、教員も同じレベルの内容や項目で判断されるといいと思った。

後藤委員 情報モラルに関して、パブリックコメントでの意見に対する回答にもPTA協議会と連携して取り組んでいるとあり、PTAでも、GIGAスクール構想の導入時期には情報モラルに関しての研修が盛んに行われていた。ただ、それ以降、道徳や端末を活用する授業の中にモラル教育が入ってきており、学校でも教えているならというところで、研修のメインのところからは抜けてきている。やはりすごく大事なことだと思うので、親からすると、モラル教育は学校でやってくれているだろうという認識になってきているが、それぞれの授業の中でばらばらと内容が入ってくると、最初の導入のタイミングできちんと教えられているのかと心配するところではある。そのため、必ず、なるべく早期に、情報モラルやネットリテラシーについての教育はしっかりと行っていただきたいと思う。

民間等のプログラミング教室では、最初にネットリテラシーについて学ぶが、今の市のやり方では、ばらばらと入ってくる。先ほどの子どもたちの情報活用能力学習目標リストにも記載のある情報モラルの各項目については、教育委員会でもしっかりとチェックをし、きちんと教えられているのか常々確認をして、抜けがないようにしていかなければと思う。なお、リーフレット配布については、効果が不十分なところもあると思うので、しっかりと授業等で教えていただきたい。

教育長 非常に大事なところだと思うので、大切にしていきたいと思う。

花渕委員 令和5年度から9年度の間に端末の更新が入ってくると思うが、同じChromebookを使うかなど、検討の状況はどうなっているか。

ICT教育推進担当課長 更新のタイミングでどの機種を使うか、また費用負担の問題などについては、国の動向を注視しながら検討をしたいと考えており、今具体的に何か進んでいる状況ではない。

花渕委員 いつ頃更新なのか。

ICT教育推進担当課長 情報機器の更新は5年スパンで、令和3年度に導入したため、更新は令和8年度を予定しており、その前段階から検討を進めていかなければならないと考えている。

山田委員 パブリックコメントで意見を出された方は、どういう方なのか。現場をよく分かっている方の意見が多いような気がしたので、分かれば教えてほしい。

ICT教育推進担当課長 パブリックコメントの意見を提出いただく際、職業を記入してもらっていないため、どのような方からの意見かははっきりとは分からないところである。ただ、大学の先生方を通じて学生などにも意見を求めているため、教員を目指す学生の意見も含まれていると考えている。

山田委員 パブリックコメントの内容を見ると、保護者や先生と思われる方からの意見がすごく多いので、何かお願いなどされたのかなと思った。

ICT教育推進担当課長 各学校に対しても意見を求めており、計画の策定にあたって現場の声を吸い上げたいという思いがあった。また、市のPTA協議会にも赴き、役員等に対して、計画に対しての意見があればということで説明をさせていただくなど、広く意見をいただけるよう進めてきたものである。

### (3) 「仙台市確かな学力育成プラン 2023」最終案について

(学びの連携推進室長 説明)

#### 資料に基づき報告

山田委員 今回それぞれの計画の内容を確認するのが結構大変だったが、おそらく現場の先生方もそれは同じだと思う。そのため、これから落とし込まれる部分もあると思うが、先生方が何をどうしなければならぬのか、具体的に何をすべきなのかなど、分かりやすくする必要があると思う。文字がすごく多く、多忙な先生方はなかなか読む時間もないだろうと思うので、そのようにしたほうが良いと思った。

学びの連携推進室長 たくさんのものが現場に押し寄せていく状況で、各プランを提示しながら概略の説明をする機会などがあればとは思っている。実際のところは、学校と関連する事業についての説明や研修会を開催する中で、プランとの関連性や他の事業とのつながりなどを改めて確認しながら、何に重点を置いてくのかといった部分を丁寧に伝えていければと思う。

梅田委員 私も現場の先生方が、分かりやすく使いやすいものになっていくと良いと思った。こちらのプランは前回も見せていただいております、やはり子どもたちの学習指導はとても大切で、それが学校の本分かなと思っている。きちんと学ぶ力を身に付けていくことは重要であり、本プランには、落ち着いた学習環境や個々への支援といった特別支援教育的な視点も含まれているし、ICTの活用なども記載されている。であれば、教育構想 2021 の下に様々なプランが並んでいると思うが、市として最も大切にすべきことは何であり、そこに集約されるようにそれぞれのプランがあるといったような、全体が見渡せる説明をしていただければ良いと思う。どうしても現場では、今日やること、明日やることに追われてしまうので、遠い先を見越して、先生方がこんな子どもを育てていきたいという思いを持てるよう、全体を踏まえた各プランの位置付けや、こんな子どもたちを育てていきたいという思いに基づいているということ、どの学校でも説明できるよう工夫をしていただければと思う。そうすれば、色々なものが出てきても、先生方としてはここを大事にすればいいということが分かりやすく、それを心にとめて日々の教育に当たれると感じた。

また、他のプランでもいえるが、色がたくさん使われており、特に色の上に色の文字が重なっていると、文字が見づらい。見やすいように工夫されていると思うが、さらに見やすく分かりやすいものとなるよう、配慮していただければと思った。

学びの連携推進室長 教育構想 2021 とのつながりが、日々の学習活動や授業でも意識され、学校や先生毎にばらばらではなくて、市の教育として一つの流れになっていくような説明ができるように努めてまいりたい。体裁については、なお工夫してまいりたい。

花淵委員 目標達成のための6つの領域の中に仙台自分づくり教育の充実とあり、まさに仙台市独自に行っているすばらしい教育だと思う。その中にある楽学プロジェクトについて、今年度私も見に行ったが、参加者は何人くらいいたのか。

学びの連携推進室長 今年度の人数は把握していないところであるが、コロナ禍前は1,200人といった規模で行っていた。それが縮小した形になっているということであるが、人数については後ほど確認したいと思う。

花淵委員 中には参加できなかった子どももいたと思う。もちろん講師側の都合など様々な事情もあると思うが、学びたいと言っている子どもたちがいたら、受け入れてあげら

れるようにしてほしいと思う。ぜひ来年度に向けて検討をしていただき、希望する多くの子どもが参加できるようにしていただければと思う。

学びの連携推進室長 楽学プロジェクトも長い歴史があり、市のPTA協議会にも協力していただいて、推進体制も充実してきているが、やはり子どもたちの受け入れといったところの課題は常にあると伺っており、リモートなど、どのような形で応えていくのかは、今後検討されていくと思う。

#### (4) 「仙台市特別支援教育推進プラン 2023」最終案について

(特別支援教育課長 説明)

##### 資料に基づき報告

梅田委員 特別支援教育をめぐる国の動向が示されているが、昨年12月に、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する国の調査結果が出ているので、今後5年の計画ということを考えると、やはり触れておくべきではないかと思う。プランの中でも重視されている、通常の学級も含めた教員の多様な子どもたちに対応する専門性の向上や指導力の向上といったところに大きく関わってくると思うので、ぜひ触れていただきたい。

また、今回のパブリックコメントの中に、多様性に関する意見があったと思う。特別支援教育という枠組みの中で、障害のある子どもに丁寧に対応していくことは当然重要だと思うが、不登校やいじめなども、特別支援教育とリンクしている部分が多く、だとすれば、次回の改訂を見据え、その枠組を特別支援教育とするのか、少し幅広く捉えていくのかについて、議論していただければと思う。自治体によっては、特別という言葉を取り、支援教育として虐待や家庭的な問題についても広く取り込んでいるところもあるので、その辺も含め、幅広く検討いただければと思う。

特別支援教育課長 まず、調査結果の件について、プランの中にどのような形で入れられるか等は検討していきたい。

また、2つ目の意見についても、実際にプランの検討委員会の中でも、様々な状態像の子どもたちに対して、まずは適切な合理的配慮の提供ができるようにという議論もなされていたところなので、その点も踏まえながら今後検討してまいりたい。

庄司委員 具体的な取組みについて、プランを読んでいてすばらしいと思ったが、何かを取り組む前に、先生や周りの大人たちが、命の大切さというところを一番に持って、子どもたちと接してほしいと感じた。やはり何か障害を持っていたり、支援学校や支援学級に通わないまでもグレーゾーンといった子どもは多く、それがいじめにつながっていくといった状況も多くあると聞いているので、学校の先生方だけに限らず、まずは命の大切さというのを一番にさせていただけたらと思う。

特別支援教育課長 今いただいた意見については、今後プランを展開していく上での大切なポイントとして押さえていきたいと考えており、基本方針Ⅰの「ふかめる」でも、多様性を認め合い相互理解を深めること、子ども一人ひとりが安全で安心して過ごせる学校、地域を目指すことを掲げているので、その中にもある教職員の障害への理解やその推進などに今後努めてまいりたいと思う。

花淵委員 基本方針Ⅳに家庭や関係機関との連携を深めるとあったが、この関係機関というのは具体的にどのようなイメージなのか。

特別支援教育課長 こちらの関係機関については、例えばアーチルなどの専門機関はもとより、子どもたちが学校以外で活用している放課後デイサービスや児童館、様々な医療機関など、そういったものが含まれている。

花 淵 委 員 現在、教育局以外が所管する他局の施設とは、特別支援教育課で定期的に会合などを持っているか。

特別支援教育課長 例えば医療的ケアが必要な子どもたちの関係会議の中に特別支援教育課も入っていて、アーチルや各医療機関、大学、医療的ケアをサポートする事業所などとは定期的な会合を持ったりしている。

花 淵 委 員 結局、各学校がアーチルなどの関係機関に当たって、実際に自分の学校に通学してくる子どもたちの状況把握に努めていることが多いと思う。そのあたり、対象となる子どもの数も多く全てを網羅するのは難しいと思うが、特別支援教育課として各学校に情報提供できるようなシステムがあるといいと思った。各学校の校長先生や特別支援教育の担当の先生を呼んでの連絡会のようなものでもいいとは思いますが、その辺りを調整いただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

特別支援教育課長 子どもの情報や機関同士の連携といった点については、特別支援教育コーディネーター連絡協議会を市で開催しており、各中学校、高校を中心に、その学区の小学校、幼稚園、保育所、地区によっては放課後等デイサービス、児童館なども加わった、定例会などを設定している。また、地区毎にも時期を設定しながらの情報交換会、この時期であれば幼稚園、保育所から小学校に入る子どもの連絡会や引継ぎの会などを行っているので、そういったものもベースにししながら、情報交換や連携を密にしていきたいと思う。

#### 4 付 議 事 項

##### 第 38 号議案 令和 5 年度の実沢小学校の休校について

(学事課長 説明)

原案のとおり決定

#### 5 閉 会